



私たちは聴くことを大切にします。
ESの文字を左右対称に合わせることでより
対等な関係で耳を傾け心のささやきにも寄り添い
聴くことを表現しています。

NPO 法人えんぱわめんと堺/ES
NO.46 2025年10月発行

もくじ

- P2 NPO 法人えんぱわめんと堺 第23回 総会ごあいさつ
代表理事 北野真由美
- P3 エンパワメント研究会 vol.15&vol.16
- P4~5 第23回 総会イベント報告
- P6~7 【事業報告】CAPプロジェクト
- P8 【事業報告】オレンジりぼん
- P9 ワークグッズを活用して
- P10 【研修案内】その1「子どもの暴力と性（ジェンダー）
～子どもへのスキンシップと性暴力の境界線～」
講師：阿部真紀さん
その2「多様な性への理解～わたしはわたしとして生きるため～」
講師：吉川ヒロさん
- P11 【メンバーエッセイ】「あなたが大切にしたい平和」とはなんですか？
- P12 事務局よりおしらせ



事務所の近くに咲く曼珠沙華
ようやく秋の訪れ

NPO法人えんぱわめんと堺 第23回 総会ごあいさつ



今年も、NPO 法人えんぱわめんと堺の 23 回目の総会を迎えることができました。
日頃から、えんぱわめんと堺の活動にご理解・ご支援をいただいている皆さまやそして日々向き合うワークショップなどで出会う子どもたちの力で支えていただいていることにあらためてお礼を申し上げます。

先日、幼稚園の保護者を対象に CAP のおとなワークショップを実施しました。

私が 30 年前に初めて CAP に出会い「子どもには安心して生きる権利がある」と知った時に、「なぜ、私の子どもの時に、そのことを教えてくれなかったのか？知っていたら、もっと人生が変わっていたかもしれない」と話しました。

おとなのわたしたちも、今、安心して生きているのか？の問いに立ち止まる人が多いように感じました。

でも、おとなが安心できないと、子どもたちの安心はなかなか得られないのでは？と問いながら、子どもの日常を振り返りながら、リフレーミングで肯定的な力を見つけるワークショップをしています。

CAP は安心自信自由の権利があるというのがベースのプログラムです。

これを堺市のすべての子どもに届けたい思いから今に至っています。子どもたちに安心自信自由の権利があることを伝えることで子どもたちの表情が明るくなったり、元気になったり。そして昨年は、死にたいと思っていると話に来たある中学生が、この権利を知ることによって「権利をもっているんやったら、それを使わな損や」と言って、変化をしてきたことは、私の中では大きな力として残りました。

この権利をもっと定着させていこうとえんぱわめんと堺では、次のステージへと動いています。今日の総会の後のイベントでは、～堺市に子どもの権利条例をパート 3～を予定しています。

わたしたちが安心して生きる権利があることを継続し約束されることを条例で残したいと考えています。引き続き、えんぱわめんと堺の活動にご理解とご支援いただけることに感謝し、あいさつに代えたいと思います。

2025年5月17日(土)

代表理事 北野真由美

エンパワメント研究会

8年目を走っています、エンパワメント研究会。

受講される方は多岐にわたります。ご自身の職場や地域での活動に活かしたいと参加された人、まだまだ学びたいと遠方から参加される人などなど・・・。

えんぱわめんと堺で共に活動する仲間も増えました。

一人でも多くの子もたちにエンパワメントとして、関わりましょう。

～ともに学び、エンパワメントになりませんか？～

2025年度 Vol.15 は残り2回の開催です。

★11月8日（土）13：30～16：00

「対立をおそれず対話しよう」～意見を言いやすい関係性～

★2026年1月18日（日）13：30～16：00

「誰のためのルール？規律？しつけ？」～エンパワメントの問い～

*場所はいずれも堺市産業振興センター

そして、**vol.16【実践編】**を開催決定！！

エンパワメント研究会を受講した方を対象に、

これまで研究会で子どもの権利をベースに、エンパワメントによるファシリテーターの学びを積み上げてきた、その力を現場で活かすための【実践編】です。

★2026年3月7日（土）13：30～16：00

「エンパワメントとしての自分」～子どもと向き合うために～

★2026年3月12日（木）13：30～16：00

「なにが起こるかわからない」～どうする？エンパワメント～

*場所はいずれも堺市産業振興センター セミナー室3

*講座ではえんぱわめんと堺発行のガイドブック「エンパワメントへの道しるべ」

（1冊2000円）を活用しています。

♪お申込はこちらから

参加費（1回につき）
一般3,000円（学生2,000）
賛助会員2,000円
正会員1,000円



<https://ef16-2026.peatix.com/>

総会イベント報告
 子ども基本法で堺が変わる
 — 堺市に子どもの権利条例をパート3 —



山縣 文治さん
 大阪総合保育大学
 特任教授
 堺市子ども子育て会議委員



北野 真由美
 えんばわめんと堺代表



参加者のみなさん



国は令和5年に子ども基本法を施行し、子ども権利も法定しました。子どもの権利条約の精神の通り、全ての子どもが、幸せな生活を送ることができる社会の実現をめざしています。堺市でも、国の施策を受けて、令和7年に子ども計画（5ヵ年）を法定します。少しずつですが、子どもまんなか社会の実現に向けて動き出しています。私たちは、両年子どもの権利を守る活動を行ってきたNPOとして、様々な子どもに関わる人や団体と連携し、子ども達が権利の主体であることを伝え、その声が社会に反映される仕組みをつくる大切な一歩を踏み出します。子どもの意見が聞かれる場を増やしたい。その為に、堺市でも子どもの権利条例の制定を求めて活動していきます。共に考え行動する仲間を増やしネットワークを広げていきたいです。ぜひ、ご参加ください。

5月17日（土）、総会後のイベント「子ども基本法で堺が変わる～堺市に子どもの権利条例をパート3～」を開催しました。会場には約40名の皆さんが集まってくださいました。パート1、2より継続して参加して下さる方もあり、本当に心強く感じました、ありがとうございました。今回は市議会議員さんや元議員さん、CAPでお世話になった元校長先生、地域で子ども支援に関わられている方々、フリースクールや放課後の居場所に関わるNPOの方、行政の方など、当団体のイベントにはじめて参加の方もあり、とても幅広いつながりが生まれる場となりました。

◆ゲストは、大阪総合保育大学特任教授で、堺市子ども子育て会議委員も務められた山縣文治さん

全国の子どもの権利の成り立ちや内容について紹介しながら「形式だけでなく、子どもが実際に意見を言え、参画できる仕組みがあるかどうかが大変重要、本当は救済機関も共に考える必要がある」と話されました。「子どもの権利はわがままと誤解されることもあるけれど、本来は人権です。だから僕は『子どもの人権条例』と呼びたい」と、山縣先生の長年の想いも聞かせていただきました。

そして、参加者である私たち自身にとっても大切な視点が示されました。それは、子どもを支援する立場にある私たち支援者や教育者、サポーター自身が、知らず知らずのうちに子どもの権利を侵害してしまうことがある、という指摘です。

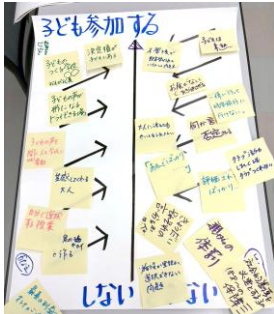
また、子どもの声を代弁する「アドボケーター」として関わる時、子どもの言葉を大人の言葉に置き換えて伝える過程で、都合のよい解釈や付け足しが生まれ、子どもの思いが歪んでしまうこともあります。だからこそ、子どもの言葉をそのまま丁寧に届ける「インタープリター（翻訳者）」として関わることの大切さが強調されました。私を含め、参加者に深く響いたのではないのでしょうか。



◆後半は、グループごとに分かれてディスカッションを行い、交流の場となりました。

それぞれの職場や団体で子どもと関わるなかで感じている工夫や課題を出し合い、「子どもの声を聴く場、聴かれる場があるのか」「子どもの意見をどう受けとめるか」「権利をどう伝えるか」など話し合いました。違う分野の人どうしが意見を交わすことで、新しい視点やアイデアが生まれる場となったと感じます。

参加者の感想から、イベントの成果がよくわかるので、掲載させていただきます。



◇参加者の感想（一部抜粋）◇

- 「権利」と「人権」の違いの大きさにハッとしました。子どもにとって本当に必要なのは“わがまま”ではなく人権だと実感しました。
- 子どもの人権を守るつもりでも、支援者自身が侵害者になり得るというお話は深く心に残りました。
- インタープリターという役割を知り、“聴く”ことに込められた意味を改めて意識しました。
- グループワークで他団体の方と対話し、課題や工夫を共有できたのが新鮮でした。
- 行政の壁を感じることもあるけれど、横のネットワークを強めて取り組む大切さを実感しました。
- 「子どもの権利条例」ではなく「子どもの人権条例」と呼ぶ意味に納得しました。
- CAP 活動での子どもとの対話を思い返し、子どもの声を受け止めるおとなでありたいと感じました。
- 現場の厳しさに凹むこともありますが、仲間やネットワークの存在に励まされました。
- 堺市が先駆けて子どもの権利条例を制定できればと期待しています。
- 子どもに「どうせ無理」と思わせないために、大人の対応を考えたいです。
- 自分の子育てを振り返り、子どもと心を通わせて対話することの大切さに気づいた。
- 他市の条例の事例を知り、堺での条例づくりに活かしたいと思いました。
- 「子どもは大切にされる存在」という当たり前を、社会全体で共有したいです。
- 今日をきっかけに仲間が広がっていくことを願っています。
- 子どもの声を聴き続け、あきらめずに届けることを忘れずに活動したいです。

終始、温かな雰囲気の中、世代や立場をこえて「こどもまんなか社会」を本気で考える時間になったと思います。今回の集まりでつながった方々と共に、これから堺市での子どもの権利条例づくりを進めていきます。

一緒に考え、行動しませんか？ 条例づくりに参加頂ける方は当団体まで連絡ください

子どもの権利を守り、彼らの声を社会に反映させるためには、多くの人の協力が必要です。あなたの力を貸してください。共に、子どもおとなも安心して生きることのできる社会づくりを進めていきましょう！



あーみん

CAPプロジェクト

自己紹介と活動への想い

私の名前は岩崎紘美と申します。普段は「ひろん」と呼んでもらっています。

8年前から性教育を学び始め、現在は思春期保健相談士として、堺市内の小学校を中心に活動しています。養護教諭の先生方と連携しながら、子どもたちが安心して身近な大人に話せる環境づくりや、性教育の導入を考えている先生のお手伝いをしています。

私は3人の子どもの母であり、また専門学校で18年間、教員を務めてきました。多くの若者と接する中で、人間関係や性に関する悩みに直面し、より深く性教育を学びたいと考えようになりました。その過程で出会ったのが、CAPやデートDVなど様々な活動をされている徳永桂子さんです。徳永さんから人権の大切さを教えていただき、「生と性」というテーマをさらに深く学びたいと強く思うようになりました。それが、人権につながるCAPスペシャリスト養成講座を受講する決意をしたきっかけです。

子どもの頃、私は権利について学ぶ機会があまりありませんでした。調和を重んじる家庭や社会の中で、「対等な対話」に触れる経験も少なかったため、人権という考え方は私にとって新しい気づきだったのです。

そんな私が「えんばわめんと堺」の方々と出会ったとき、資格や経験、年齢の違いではなく、対等な関係の中で生まれる安心・安全な空間に強く惹かれました。ここでならスキルアップし、自分の視点を広げられると感じ、学びを深めるためにも所属したいと思いました。そして、子どもたちが暴力から守られ、安全に過ごせる社会に近づくために、私も力を尽くしたいという強い思いを持つようになったのです。

活動を通じて感じたこと

「えんばわめんと堺」の皆さんと関わってまず圧倒されたのは、その熱量でした。先日、小学校でのワークに初めてロールプレイヤーとして参加する機会をいただきました。練習には、平日にもかかわらず多くの仲間が「一緒にやろうよ」「練習しようよ」と集まり、その純粋な熱意に心を打たれました。

CAPのワークでは、3人一組でのチームワークが不可欠です。タイミングやニュアンスなど、細かな部分まで全員でブラッシュアップしていく姿勢は、とても学びが深いものでした。初めての挑戦で自信を持たずにいた私に、メンバーは「最初は私もそうだったよ」「ここはこんな工夫をするといいよ」と丁寧にアドバイスをくれ、子どもたちの反応に応じた対応方法まで具体的に教えてくれました。

実際のワークでは、子どもたちが予想外の行動をすることもあります。しかし、チームの仲間が「大丈夫、ファシリテーターがいるから」「仲間がいるから大丈夫」と声をかけてくれたことで、安心して役割を果たすことができました。この活動を通して、皆さんが当

たり前のように「自分の意見を大事にしながら、相手の意見も尊重する」ことを体現されていることに、強い学びを得ています。

学びの深化

小学校でのワークに参加して、私はメンバーの皆さんが子どもたちの些細な表情や行動まで、とても丁寧に見守っている姿に圧倒されました。子どもたちの微弱な SOS を見逃さず気づける、そのプロフェッショナルなまなざしに、心から感銘を受けました。

私はまだ、自分の役割をこなすことで精一杯になることもあります。しかし、一緒に活動するメンバーは、クラス全員のワークであるにもかかわらず、一人ひとりの名前や発言、表情まで見逃さずに受け止めていました。

そうして見守られていると、子どもたちはトークタイムで「自分の言葉で話したい」と思えたり、「この人なら気づいてくれるかもしれない」と感じたりするのだろうと実感しました。

かつて教員として外部講師を招いた際、私は生徒の表情を確認することを心がけてきました。しかし CAP の活動に参加することで、その意識をさらに深め、より繊細に子どもたちの心に寄り添う学びを得られたと感じています。

これからに向けて

これから CAP の活動を通じて実現したいのは、「子どもたちの声がきちんと届く社会」です。

子どもや女性、障がい者など、歴史の中で「弱者」と位置づけられてしまった人々がいます。私は、そのような言葉や偏見そのものをなくしていきたいと願っています。

権利とは、生まれた瞬間から誰もが平等に持っているものです。

私は「みんな違って、みんないい」という言葉が好きですが、現実には大人になるにつれて「違う」ことが排除の理由になることがあります。「こんなことを思っってはいけない」と自分を押し殺してしまう空気もあります。しかし、本来誰かに自分の権利を奪われる必要はなく、「それでいい」と言える環境こそが必要だと思います。

「あなたはどうしたいの？」と問いかけてもらえる社会。安心して話せる社会。「そう思うんだね、それもいいじゃない」と受け止め合える社会。私は CAP を通じて、そんな空気を広げていきたいと考えています。

私自身も、この安心・安全な空間に出会うまで、その心地よさを知りませんでした。だからこそ、より多くの人に、この感覚を伝えていきたいのです。誰もが自分の思いを語り、互いを尊重し合えることが当たり前になる——そのような社会に近づけるよう、これからも活動を大切に取り組んでいきます。
(ひろん)

【事業報告】

オレンジりぼん

こんにちは。ES ラジオのラジオホストのあいのっちです。
いつもラジオをご視聴いただき、どうもありがとうございます。
オレンジりぼんのワークショップに毎回参加してくれている方やこころクラブの保護者のみなさんに出演していただきました。

「ES ラジオ」の番組に来ていただくのは初めてで、「なに話したら良いんやろ〜」とみんな活動の後に少し緊張ぎみで収録が始まりました。
ラジオを通じて、オレンジりぼんの活動内容や活動に参加しているということなど、お話いただきました。
ES ラジオを通じて、皆さんの関心や理解がより深まったり、多様な人の多様な価値観や経験に触れた時に、聴いていて、安心する、そんなラジオでありたいなと思っています。

また、今回はダウン症の子どもを育ててこられた保護者の方にもお話を伺い、子育てを通じて感じたことや様々なエピソード、居場所の大切さなど、これまでの経験を話していただきました。

私自身、改めてラジオを聴いて、たとえ月に1回でも、地域の中で信頼できる仲間と直接会って話ができる時間、悩んでいることや困っていることを聴き合う時間をもつことは、様々なライフステージの中で必要だと感じます。「無理をしすぎないように」これに気がつけること、大事だと感じます。私も日々の暮らしの中で大切にしていきたいと思います。

ぜひ、Spotify から過去の放送回をご視聴ください。

ES ラジオは、聴きたい時に聴きたい場所で繰り返しお楽しみいただくと嬉しいです。

改めて、ES ラジオにご出演いただいたみなさま、ありがとうございました！
リピート出演大歓迎です。ぜひまた、ES ラジオでお待ちしています。

えんばわめんと堺の活動に関わりのあるみなさんへ

今後も引き続き、ES ラジオの出演者を募集しています。

●ご視聴方法：Spotify より「ES ラジオ」と検索してご視聴いただけます♪

毎月1回の配信ですが、継続していきたいと思っています。引き続き、お楽しみください。

あいのっち

ワークグッズを活用して

夏休み、西成のこどもの里でのワークショップ三昧の日、SAY（生・性）の会が小学生高学年と中高生に「自分のからだと気持ちを大事にしよう」をテーマにワークショップを実施しました。

小学生はNPO法人TEENSPOST([ホーム - TEENSPOST](#))から届いた冊子を使って自分のカラダについて、冊子の寝釈迦のように横になって自分のカラダに向き合いました。



〈からだに訊く 今日どんな感じ? どうしたい? どうしてほしい? なにが必要?〉

言葉にならない気持ちを表してくれるからだはエライ。

からだはミカタ。

□頭痛 □抜毛 □めまい □鼻炎 □ニキビ □喉詰まり □肩こり…

こころとからだはつながっている 症状別こころの声を書き込んで“私のからだ辞書”をつくってみよう

子どもたちは自分のカラダのことをそれぞれに言いながら、自分のカラダのことをいちばん知っていることが大事、自分のカラダの専門家になり伝えてくれました。カラダのしくみや働き、また性器の洗い方や妊娠のことも話しました。

中高生たちにはNPO法人 saya saya([Saya-Saya とは | NPO 法人 女性ネット Saya-Saya](#))の思春期ノートの中からスマホ依存度チェックシートを使って盛り上がりました。

毎年「こどもの里ワークショップ三昧の日」は盛り上がります。この日も子どもたちの参加力であっという間に時間が過ぎました。

えんぱわめんと堺 Facebook より

ワークショップの様子を Facebook に投稿したところ、TEENSPOSTのニューズレターで紹介されました。

「こんなふうに使ってもらえると本当に制作した甲斐があります。嬉しいです。」と、こちら嬉しくなるメッセージをいただきました。

【研修案内】

その1

『子どもの暴力と性（ジェンダー）

～子どもへのスキンシップと性暴力の境界線～』

2025年度地域における男女共同参画促進を支援するためのアドバイザー派遣事業

日時：2026年1月24日（土）14：00～16：00

場所：堺市産業振興センター 会議室3

参加費：無料 定員：36名



<https://kodomu-20260124.peatix.com>

講師 阿部真紀さん（認定NPO法人エンパワメントかながわ 理事長）

子どもへの暴力とは？いじめ、誘拐、虐待、また最近では、ネットによる暴力や盗撮、痴漢など、多くの暴力が子どものまわりに混在している。私たちは、子どもへの暴力防止プログラムで、長年子どもたちと向き合い子どもの声を聴いてきた。だれもが、子どもたちが被害者にも、加害者にもなってほしくないと思う。しかし、子どもの安全安心を願うおとなの関わりが、子どもの安心を奪ってはいないか？また社会のあらゆる暴力の構造には、“ジェンダー”による刷り込みが潜んでいないか考えます。

お申し込みは、各QRコード、もしくはえんぱわめんと堺までご連絡ください。



072-230-5588



empowerment@lily.ocn.ne.jp

その2

『多様な性への理解～わたしはわたしとして生きるため～』

2025年度堺市男女共同参画推進講師派遣事業

日時：2026年2月1日（日）13：30～15：30

場所：堺市産業振興センター セミナー室3

参加費：無料 定員：36名



<https://tayouna-20260201.peatix.com>

講師 吉川ヒロさん 『TOMONI.』共同代表

“見えない性”多くの子どもたちが、自分のままでいいと思える、そんな関わりを考えましょう～

【メンバーエッセイ】

「あなたが大切にしたい平和」とはなんですか？

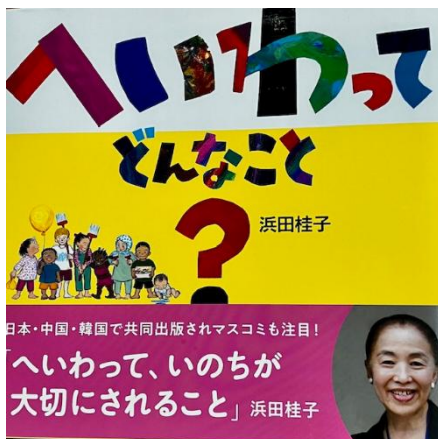
この夏『「あなたが大切にしたい平和」とは』を考える機会があった。私が大切にしたい平和とは何か。「平和」を検索すると、「戦争や災害のない、世の中が穏やかで安穏な状態で、みんなが笑顔になれること」言わずもがな、誰もが最も願うこと。しかし現実には、ウクライナの情勢やガザ・イスラエル紛争始め、世界の中では平和が成り立たない暴力が横行し、たくさんの人々が傷つくというニュースが流れてくる。毎年日本では、原水爆禁止世界大会広島・長崎が8月に開催され、平和を願う人々が集う。私の知り合いは、この大会に参加し、お年寄りが戦争体験のお話をしてくださるイベントを開催したり呼び掛けをしている。私はと言うと、バッチやボールペン等寄付できるものを購入するぐらいなのだ。「平和なんて大事に決まってるやん」と言いながら、何一つ行動に移すこともせず、さっぱりだ。ひとたび戦争が起きると、戦渦ではもちろん、たとえ収束しても、爪痕は深く残り傷つきはなかなか終わらない。結局は人の心が、感情が、争いを引き起こし一方的に攻撃したり、戦争へと向かったりする。なぜ繰り返すのだろうか。

国レベルから社会へ、また地域、職場、家庭、そして個人へと焦点を絞っていくと、人と人との在り方においても同じだ。共生の中では、考え方や感じ方等の違いがあるのは当然で、違うがゆえに色々な感情が現れてぶつかる。ただ、ぶつからないようにかわすのが、「平和」なのか？いや、もちろん、暴力を使うのは違う。しかしぶつかった時、意見や思いを言い合わずにいるのは、私にとって「平和」とは言い難い。常に笑顔でいることばかりが、「平和」ではない。伝えたり、聴いたりしあえる状態があってこそ「平和」であり、安心を感じる。では相手も同じ気持ちであるか、それはまた別の話だ。そこが難しいところである。それでもなお、あきらめずに互いの安心を大事にできる、暴力以外の方法で、「平和」をめざすための一步を踏み出したい。

というわけで、私はまずは映画「宝島」を観に行き、薦められた本を2冊購入した。

季節はすっかり秋ですね～映画を思い出しながら、何度も読み返しています

ほりちゃん



『へいわってどんなこと？』

作 浜田桂子 童心社

『へいわとせんそう』

文 たにかわしゅんたろう

絵 Noritake

ブロンズ新社





ローズカーニバルのご報告

ローズカーニバルは5月18日に堺市の浜寺公園で開催されました。売上金は55,035円でした。

今年はテントを設営し、暑さ対策をしながら、メンバーで声を張り上げながら売りました！

この売上金は、主に障がい児者へのワークショップ費用に活用させていただきます。

たくさんのおもちゃや商品を提供してくださった方、購入してくださった方、遊びに来てくださった方、ありがとうございました♪

会員募集～入会手続き～

正会員 5,000円

(初年度のみ入会金 3,000円)

賛助会員 1,000円 (入会金なし)

更新日は年2回 (1月31日・8月31日) です。

◎ 会員有効期間は1年です。

◎ 郵便振替～通信欄に必要事項をご記入ください。

加入者名 特定非営利活動法人えんぱわめんと堺

口座番号 00920-9-182116

正会員 30名

賛助会員 66名 (75口)

寄附金 90,580円

(2025年4月～2025年9月)

2025年9月末現在

ESの活動はみなさまからの寄付、ご支援にささえられております。今後ともよろしくお願いたします。

特定非営利活動法人えんぱわめんと堺 / ES

〒599-8244 堺市中区上之801番5号

TEL: 072-230-5588 FAX: 072-230-5589

E-mail: empowerment@lily.ocn.ne.jp <https://www.npo-es.org/>

ホームページやFacebook も見てね



編集後記

「えっ？推しは誰？」高校生たちと一気に話題が広がりキョリが近くなる。推しに夢中になり、韓国語を学び、推しのダンスも真似てみる。活動やワークショップの連日も、推しの動画や音楽で、疲れが和らぐ。韓国の事もっと知りたくなり、推しのグッズを鞆につけて毎年一回の渡韓。知らなかった韓国のこと、もっともっと知りたい学びたい。そんな気持ちがかからだの中から湧き上がる。そう、元気の素はここにあるかも。笑 (SAME)

